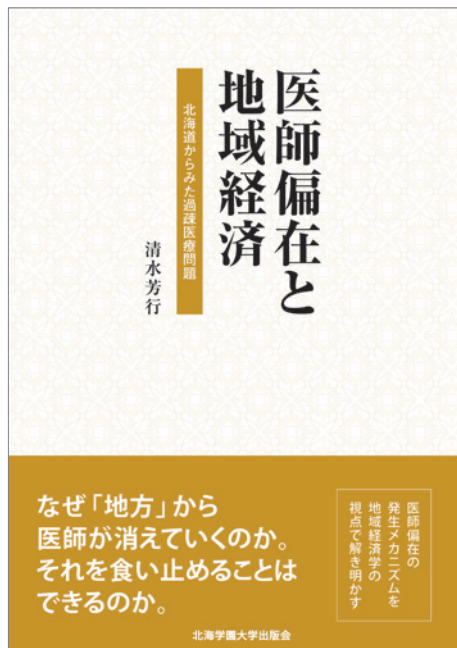




北海学園大学出版会



医師偏在と地域経済

—北海道からみた過疎医療問題—

著者	清水芳行
判型	A5 判
ページ数	272
製本	上製本
発行日	2023年1月15日
ISBN	978-4-910236-06-3 C3033
定価	4,730円(本体4,300円+税)

【内容紹介】

なぜ「地方」から医師が消えていくのか。
それを食い止めることはできるのか。

医師偏在の発生メカニズムを地域経済学の視点で解き明かす

医療の対象が人間である以上、医師偏在問題を解決するためには、人口の流動性やその奥にある地域産業の動態、さらには医療の成り立ちや経過について地域ごとに分析し、そこから見えてくる「過疎医療の地域性」を理解したうえで、医療を地域問題の中心に据えて対策を講じる必要がある。しかし、このような考えに基づいた医師偏在対策はこれまでとられてこなかった。なぜなら、「医師偏在」の原因は医療内部、医療の供給サイドにあると考えられてきたからである。そのため、政府はあくまで医療側の論理で地域に医師や医療を配置、配分してきた。また、医学部入学定員を増員し医師総数を増やすことで地方への医師の再配分を促し、医療資源の不均衡な分布を是正しようとした。このような医療政策を推し進めた結果、どうなったか？医療格差は拡大し、多くの過疎地域の医療は崩壊の危機に瀕している。本書では、医師偏在問題は医療政策だけでは解決できないとの立場から、地域経済学の視点で解き明かす。

【著者紹介】

清水芳行 (しみず よしゆき)

1974年愛知県生まれ。北海学園大学大学院経済学研究科経済政策専攻博士(後期)課程修了、博士(経済学)。名古屋市病院局(現・名古屋市立大学医学部附属東部医療センター・西部医療センター)、金城学院大学薬学部客員研究員、北海道情報大学医療情報学部准教授を経て、北陸大学医療保健学部教授。北海学園大学開発研究所客員研究員。専門は臨床工学、生体機能代行装置学、地域経済学。